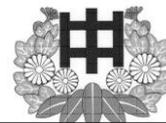


合志中学校だより

【学校教育目標】

郷土に誇りを持ち、未来を拓く、心豊かな子どもの育成

「やったことないにチャレンジ」する生徒・職員・学校



第14号 令和6年1月15日(月) 文責 校長 中村 浩
主幹教諭 吉良 洋輔

【日本画を寄贈していただきました！！】

後期前半終わりの全校集会が行われた12月22日(金)に、絵画の寄贈式を実施しました。当日は、寄贈いただきました野口経俊様の娘様である松田千里様にお越しいただきました。

(前略) 皆さんの大先輩に坂本幸重先生という日本画家がいらっしゃいます。この合志中学校を卒業されてから、県外に出られました。19歳の時、昭和を代表する日本画家 東山魁夷の画集をご覧になり、感銘を受け画家になることを決意されました。現在は群馬県にお住まいです。何度かお電話していますが、お話がおもしろいですし、とてもパワフルな方です。その坂本先生が描く日本画の多くは、魚の鮭の絵です。皆さん、鮭の習性をご存知ですか？鮭は川で生まれて、海に出て、また川に帰ってきますね。お持ちしましたこの絵は、26年前に坂本先生が描かれた「鮭」というタイトルの日本画です。皆さんが生まれる10年以上前の作品ですね。この合志中学校で学んだ坂本先生の絵が、こうして合志中学校に来ることになったのは、まるで鮭が生まれ故郷に帰ってきたみたいです。さて、どうして私がこの絵をお持ちしたか。皆さんからすれば「誰？このおばちゃん」ですよ。それは、私の親戚の伯母が中学の先生で、この合志中学校で坂本先生の担任をしていたご縁があるからです。そして、この絵は私の父が坂本先生から直接買い求めたものなのです。では、なぜ寄贈をするのか。それは、これが素晴らしい芸術作品であるからこそ、私たち家族が握っておくものではなく、多くの方々の目に触れるものであってほしいと考えたからです。日本画の絵具は岩絵具といって、天然の鉱石を粉にしたものです。例えばこういうものです。これは孔雀石といいます。ですから、日本画は宝石と言っても過言ではありません。お持ちした鮭の絵は、カッコよくて、とても綺麗です。鱗の青色がとっても美しいです。私の親友が関東で日本画の学芸員をしています。この絵を見て「いい、すごくいい」と言います。本当に自慢の絵です。皆さんの先輩である坂本先生がお描きになったこの絵は、今日からここ合志中学校の校長室に展示されることになりました。是非、皆さんにもこの絵をじっくりご覧いただきたいと思います。あなたがこの絵を見る時、この絵はあなたのものです。本日はこのようなお時間をいただき、どうもありがとうございました。



さらに、絵の作者である 坂本幸重 様より、心温まるメッセージをいただきました。

この度は私の作品「鮭」が母校合志中学校に寄贈されたとのこと、今もなお故郷合志市と繋がっているようで心から嬉しく思います。私は二人の恩師との出会いに恵まれました。一人は、私が画家を志すきっかけとなった東山魁夷画伯の義弟である川崎春彦先生です。川崎先生に弟子入り出来たこと、厳しいご指導を受けたことは幸運であったと思います。もう一人は、合志中学校で担任であった内尾セイ子先生です。卒業後も内尾先生のお宅へ伺い、先生やご家族とお話することが楽しみでした。内尾先生はずっと私を応援し続けてくださり、苦しい時を支えていただいた恩人です。私は一心不乱に絵を描き、画家として生活することが出来ました。一方で、人と人との出会いこそ人生を動かすとも感じています。中学生の皆さん、どうぞ出会いを大切に。人は誰かに支えられながら羽ばたくことが出来ます。その誰かを見つけることができるよう願っています。

令和6年の1年間が、皆さんにとってたくさんの「やったことないにチャレンジ」し、この作品「鮭」のように、大先輩である 坂本幸重 様のように羽ばたいてほしいと願っています。